

日米友好ロータリー会議・レポート Pガバナー 岡島哲之助(甲府RC)

ロータリーを通じての日米友好関係の再確認、国際的な理解と親善の促進を目的に 6月11、12の両日米国テネシー州オークリッジ市で開催された日米友好会議に参加しました。この会議はオークリッジ誕生50周年を記念し、地元のRCをはじめ日米およびスイスの42地区から289名のロータリアンが参加して開かれた国際的メインイベントです。R財団・平和プログラムは本会議の援助の為にクラブ主催のイベントとして過去最高の2万6950\$を寄贈しました。

国際理解と世界平和、日米友好親善の促進について友好的な雰囲気の中で熱のこもった討論が展開され、特に日米友好親善を阻害するものとして日本語の難しさがクローズアップされたのをはじめ、GSEに参加する為には米国では1万\$で済むところが日本では8万\$もかかるというコスト高の問題等も俎上に上げられ、参加者たちがお互いに理解し合おうとする真摯な態度に深い感銘を覚えました。

会議では日米友好会議が提唱する活動提案としてオークリッジ決議が採択されました。内容は①日米ロータリアンの恒久的な親善強化、②両国の文化に対する相互理解と寛容の確立、③緊張緩和への努力、④善意、理解、平和の絆を強化し世界に広めるといふ、4項目から成り立っています。この決議の特徴は①相互尊敬、②相互協力による緊張解消への努力、③人道的援助提供への協力、④ロータリーの原則を適用、実践することによる問題解決への協力の奨励、⑤94年乃至95年に第2回会議を開催する方向で運営委員会を設立し、今回提言した問題解決への努力を行うというものです。

共同議長長の伊藤義朗元RI理事は「日本側の基調講演者として栗山尚一駐米大使も参加され会議は大成功でした。日米両国のロータリアン

の責任の重要性と両国の絆の強化の必要性を参加者一同、心を新たに再認識した

ものと信じています」と締めのご挨拶をされました。

第4セッションに於ける

パネリスト 加藤恒七PGの演説

ロータリー世界の中で米国と日本が今後どのようにして真の親善を深め得るか、また深めるべきかを申し上げます。

アメリカ合衆国は僅か二世紀の間に、最初はヨーロッパついでアフリカ、アジアの諸民族が移住し混血しました。複合国家と呼んでもよいと思います。しかしその文明文化の性質は、正しくヨーロッパに根差していると思いますが、少し異なる点があります。それは新大陸の広大さが一つの要素。次いで前述の各民族が故郷から持って来た、文化、思想、文明に執拗に固執しなかった事だと考えます。即ち大らかな寛容の精神だったと思います。これは全くロータリーの精神と同一のものです。この精神がなければ、どうして何十もの民族が集合して一大国家を形成して行くことが出来るでしょう。

日本を視てみましょう。一般に日本はよく単一民族だと呼ばれます。私の考えは全く異なります。短期間の出来事ではありません。民族学者の説に従えば、日本民族は1万年乃至5千年の長期に亘って北はシベリア付近の民族から南はインドネシア、ポリネシア、マイクロネシア、比較的近世には中国、朝鮮半島の民族が混血し



ていると言われます。しかし日本の文化、思想は中国大陸の影響が濃いと思われれます。

以上の簡

単な日・米の観察から、アメリカは西洋文明の代表者であり、日本は東洋文明の代表者と言えるかも知れません。私はここで、道の右側を歩いているものが左側を歩いているものを批判する事に同意出来ません。各々その帰途には反対側を歩く筈ですから。

また今の人類社会にとって、そんな呑気な事をやっている暇はありません。私は今人類が歩いている道が間違っていないと、とても断言出来ません。産業革命後人類は一途に生活の向上に科学の力を適用して参りました。それは華やかな事でしたが、今人類は少し立停って考えるべき時に到達していると考えます。環境問題です。また国家乃至民族間の生活水準のバランスの問題です。ロータリーは此の問題を今頃気づいている訳ではありません。1973~74年ウィリアム・C、カーター会長は、その年のテーマとして『行動の時』を掲げたが『環境調査と資源諮問委員会』を設け『大自然の法則に従え』とロータリアンに訴えた。また1980年のシカゴに於ける国際大会では広大なスクリーンの映画で『地球が人類に隷属するのではなく、人類が地球に隷属する』と言う強く印象に残る画面を公開した。

五十五億の人類は他の存在、空気、水、大地、植物、動物、河川、海、湖沼等の存在なしに生き得ません。そのどれ一つも人類が創生したなどと言えません。その反対に人類以外の存在は、人類が存在しなくても生存し得るでしょう。

しかも今までの文明は地上の自然を狂わし、破壊して来ました。此の事実に対し真剣に対峙しましょう。

米国と日本のロータリアンは各々の能力と心を新しい文明の方向に差し向ける為、今まで以上に親密な関係を創出すべきだと強く信じます。

我人生の道に迷へり

花咲き鳥唄う

この美しき地上に人の子何をか悩む

木の葉その為のみにみ努めず

木の根そが為のみにみ生きず

川の流れも自己のみにつくさず

我今自然こそ至高の師と知り

自然こそ神